

「忘却」

～忘れてはいけないことを忘れるな！！解決のために！！～
詩篇 106:6～27、103:1～5

エジプトした民やユダヤ人に神さまが語ったメッセージを詩篇で誰がうたっているでしょう。ダビデですよね。どういうことでしょうか。ダビデはなにか文献を調べて書いたのでしょうか。詩篇は歌です。ダビデは忘れないために歌にして毎日うたっていたのです。私たちは記憶を管理できます。忘れるのではなくて、きちんと整理してなくすることができるのです。それをしないと自分の言いように記憶を書き換えてしまうのです。

今回のメッセージタイトルは「忘却」副題は「忘れてはいけないことを忘れるな！！解決のために！！」です。詩篇 106

篇で、
1 わがたましいよ。主をほめたたえよ。私のうちにあるすべてのものよ。聖なる御名をほめたたえよ。

2 わがたましいよ。主をほめたたえよ。主の良くしてくださったことを何一つ忘れるな。

3 主は、あなたのすべての咎を赦し、あなたのすべての病をいやし、

4 あなたのいのちを穴から贖い、あなたに、恵みとあわれみとの冠をかぶらせ、

5 あなたの一生を良いもので満たされる。あなたの若さは、鷲のように、新しくなる。

■ ①思い起こす！！整理する！！

忘れてはいけないことを忘れないようにするポイントの1つ目です。過去をきちんと整理しなければいけません。どうだったのか、きちんと思い起こしましょう。イスラエルはどうして再建できたのでしょうか。それはイスラエルの民がこれを行っていたからです。そして今も続けています(タルムード：口伝律法は問題がありますが)。大事なことは、このダビデがうたったことです。ダビデは「主は荒野で私たちをどのように導かれたのか」を思い起こせと言っています。ユダヤの人たちは、仮庵の祭り、過越祭などの時、伝統的なことをきちんと行っています。また、家族が一緒に食事をする時に伝承することをしっかりと伝えています。

モーセに導かれて出エジプトした民は、奴隷から解放されたにもかかわらず文句ばかりでした。冬に寒いと言えば神さまは火の柱を下さいました。肉が食べたいと言えば神さまはうずらをふらせてくれました。それなのに「昔の奴隷時代の方が良かった」と文句を言うのです。それは記憶置換です。良かったことを忘れて目先の苦しみばかり目を向けるからです。

ですから、思い起こして、記憶をきちんと整理しましょう。申命記 9:6-7『知りなさい。あなたの神、主は、あなたが正しいということで、この良い地をあなたに与えて所有させられるのではない。あなたはうなじのこわい民であるからだ。あなたは荒野で、どんなにあなたの神、主を怒らせたかを覚えていなさい。忘れてはならない。エジプトの地を出た日から、この所に来るまで、あなたがたは主に逆らいどおしであった』とあります。過去を見て文句ばかり言うのではなくて、自分がなぜここにいるのか、誰のために存在しているのかキチンと整理しておきましょう。

また、申命記 6:9～12には『これをあなたの家の門柱と門に書きしなさい。あなたの神、主が、あなたの先祖、アブラハム、イサク、ヤコブに誓われた地にあなたを導き入れ、あなたが建てなかった、大きくて、すばらしい町々、あなたが満たさなかった、すべての良い物が満ちた家々、あなたが掘りなかつた掘り井戸、あなたが植えなかつたぶどう畑とオリーブ畑、これらをあなたに与え、あなたが食べて、満ち足りるとき、あなたは氣をつけて、あなたをエジプトの地、奴隷の家から連れ出された主を忘れないようにしなさい』とあります。今の自分は過去に多くの人が犠牲を払って植えてくれた種が育ったものをタダで受けているのです。蒔いてもいない種の実を刈り取っているのです。ですから、自分が今どれだけ幸せなのか、多くの人の犠牲の上に生きているのか、思い起こし伝承していきましょう。

■ ②解決者に！！車間距離でサグ渋滞回避

下り坂から上り坂にさしかかる所を「サグ」と呼ぶ。そのような所では気付かないうちに速度低下してしまう車があり、後続の車との車間距離が縮まることから、次々に後続の車がブレーキを踏むことになり、渋滞が起こる。これをサグ渋滞と言います。どうして渋滞になるのかというと「自己中心」です。適正な距離の車間距離を取っていないからブレーキを踏まなければいけなくなるのです。しかし40台に1台適正な車間距離を取ってブレーキを踏まないようにしていれば渋滞は50%回避できるそうです。ですから私たちも、この40台に1台のような解決者でありましょう。出エジプトしたイスラエルの民はモーセに不満ばかり言っていました。モーセは常にその文句を解決に導いていました。私たちは常に自分を良い状態に保たなければいけません。そしてなにか突発的なことが起こってもそれに対処できるゆとりを持っておく必要があります。みんなが誰かの悪口を言っている時、みんながやりたくないと言っている時などに1人正しい意見を持った人がいればどうでしょう？私たちがその1人にならなければいけません。決して傍観者・同調者になってはいけません。相手の良き理解者になって、その人の問題を解決してその人の存在意義を示してあげましょう。

■ ③近視眼になるな！！

ヨシュアとカレブはカナンへの先見隊員でした。他の隊員はカナンへの地を良く言いませんでしたが、この2人だけは周囲の意見に流されず、カナンへの地を素晴らしいと訴えました。今現在、目の前にある現状に目を向けてはいなかったのです。私たちの目は、今しか見えなくなりがちです。でも神さまは、先を見なさいと言われます。だから私たちは、神さまがこれからしようとしていることを見なければいけません。夢をもって、その夢を具体的に、その夢を実現するために、今自分の置かれている環境がどれだけ重要なのかをしっかりと考えましょう。神さまは、私たちが夢を実現できるようにあらゆる方法をとられます。目の前にある問題から目をそらしてほったらかして夢の実現はあり得ません。だから、近視眼にならないで先を見て、今置かれている問題に対して正しく向き合っていくべきです。IIペテ 1:3～10に『正しいのは、私たちがご自身の栄光と徳によってお召しになった方を私たちが知ったことによつて、主イエスの、神としての御力は、いのちと敬虔に関するすべてのことを私たちに与えるからです。その栄光と徳によつて、尊い、すばらしい約束が私たちに与えられました。それは、あなたがたが、その約束のゆえに、世にある欲のものたらす滅びを免れ、神のご性質にあずかる者となるためです。こういうわけですから、あなたがたは、あらゆる努力をして、信仰には徳を、徳には知識を、知識には自制を、自制には忍耐を、忍耐には敬虔を、敬虔には兄弟愛を、兄弟愛には愛を加えなさい。これらがあなたがたに備わり、ますます豊かになるなら、あなたがたは、私たちの主イエス・キリストを知る点で、役に立たない者とか、実を結ばない者になることはありません。これらを備えていない者は、近視眼であり、盲目であつて、自分の以前の罪がきよめられたことを忘れてしまったのです。ですから、兄弟たちよ。ますます熱心に、あなたがたの召されたことと選ばれたことを確かなものとしなさい。これらのことを行つていけば、つまずくことなど決してありません』とあります。私たちは、成長していかなくてはなりません。知識には自制を、自制には忍耐を、忍耐には敬虔を…です。信仰によつて信じることから始めるのです。

神さまは、私たちのことを信じて十字架にかかってくださいました。それなのに、近視眼になって不満を言って、自分のやるべき事から逃げて神さまを裏切ってしまう一度十字架にかけるのですか？今日、それらをやめて解決者になりましょう！！